

活動での体感を社会人基礎力として  
定着させる。通常授業のケース。

# 授業の目標を書き、 授業後に12の能力要素の発揮を得点化。 自己管理へのゆるやかな自覚を促す

## 英語の授業で「物事に進んで取り組む姿勢」を育成する

「外書セミナー」は、経営学部1年生全員を対象とした専門科目で、経営学に関する基本的な英語の学習を目的とした授業です。この授業を受けないと2年生から始まる本ゼミに入ることができないシステムになっています。このセミナーは、複数クラスがあり、学部の専門の教員が学生を約25人ずつ分担して指導していますが、後藤文彦教授が担当するクラスでは授業の中で「社会人基礎力」も育成できるように工夫して、授業の前後に活動振り返りシートの記入をさせることにしました。その振り返りの項目の一部に、「社会人基礎力」の12の能力要素の発揮状況のチェックを取り入れ、ゆるやかな自覚を促す試みを実施しました。授業では「社会人基礎力」のうち、特に「前に踏み出す力」、その中でも

「主体性」である「物事に進んで取り組む姿勢」の育成を重視したと言います。

## チーム・ビルディングで学び合う関係を作るのが先

この授業は、通常の英語講読の授業とは異なり、英語をグループワークで習得しようとする点に特色があります。そのため、前半（8回まで）は、徹底的にクラス・ビルディング、チーム・ビルディングを行い、学

生同士が学び合う関係性を作ってから、徐々に英語の授業に入っていきます。最近の大学生の多くが精神的にもろいところがあるため、仲間との関係の中で学べる「主体性」を育むことこそが必要だという考えもあるからです。

英語の授業といっても予習は要求せず、グループでのゲーム感覚の授業の中で、英語の力と「社会人基礎力」を育成していこうとしています。また、教員は学生自身がクラスの雰囲気をよくしていくよう、ファシリテートに徹しています。

「外書セミナー」授業の流れ

	授業内容	社会人基礎力に関する活動
1回	クラス・ビルディングをメインとしたゲーム（ペア紹介等）	事前自己評価 ゴールセッティングシート
2回		
3回		
4回	チーム・ビルディングをメインにした、5人程度のチームに分かれての英語のクロスワードパズル	
5回		
6回		
7回		
8回		中間自己評価
9回	チームに分かれて、経営学でよく使われる用語を英英単語集から選択して文脈に合わせ日本語訳	
10回		
11回		
12回		
13回		
14回		
15回	事後振り返り	事後自己評価

資料提供 京都産業大学

授業は全15回。最初の3回は、ペア紹介、共通項探しゲームなどで、クラス作りを行っていきます。その後、アメリカ合衆国政府が運営するインターネットサイト「ボイス・オブ・アメリカ」の中の、英語を母国語としない人向けに1000語の単語だけを用いる「スペシヤル・イングリッシュ」を教材として活用します。チーム・ビルディングに集中する前半の8回までは、この「スペシヤル・イングリッシュ」の一項目であるクロスワードパズルを、チームごとに競わせながら解かせていきます。

後半は、1000語の英英単語集の中から経営学で使う単語を拾い、「ぴったりの日本語訳をチームで見つけなさい」という課題を出します。10分間で、辞書を引きながらチームで話し合い、最も日本語らしく訳したチームが勝ち、という形で展開しています。チームごとに競わせながら、英語力を高めようという狙いです。

### 自己管理のための「ゴールセッティングシート」

振り返りの特色は、毎授業「ゴールセッティングシート」(p336参照)を用いて、授業ごとの目標と授業後の振り返りを書かせることです。授業の最初にその日の授業内容を説明した後、学生にその日の「授業の目標」を書かせるとともに、その日の授業で「意識して行動しよう」と思っている『社会人基礎力』の能力要素」に3分間で○(複数可)を付けさせます。授業後には、目標に対する振り返りを書かせ、「社会人基礎力」については「発揮できた程度」を5点満点で付けさせる形で自己評価させています(12要素で60点満点)。この「ゴールセッティングシート」は、教員がコメントを付けて次週に返して

います。

最終的な成績評価は、授業での学生の活動の様子に加え、このシートに書かれている学生の記述をもとに行っています。

学生には、この「ゴールセッティングシート」の他、事前、中間、事後の自己評価は実施していますが、他者評価や面談などは、実施していません。「社会人基礎力」に関して、他人から評価されるということ、他人の目が気になり行動が制限されるのではないかと考えるからです。

毎回の「ゴールセッティングシート」の一番の狙いは、自分で自分の行動を管理することです。毎回の授業で目標を決め、それに対して自分で意識を持って行動する(授業を受ける)。授業終了時の記入では、どんな活動ができたか振り返り、自ら気付かせる。こうした行動管理を促すシートに記入することで、「社会人基礎力」を育成することができるといえる。

また、英語の得意でない学生、嫌いな学生も少なからずいるため、英語への関心を高め、少しでも苦手意識をなくすと同時に、将来必要となるチームでの活動のための基本的な力も育てようと、現在のようなグループワーク主体の授業展開にしたのが、授業改善のポイントです。学生の「ゴールセッティングシート」の記述からは、英語への関心が高まってきたことがうかがわれ、「社会人基礎力」についても「グループ内の役割分担の大切さに気付いた」などチーム活動からの気付きの記載がありました。

分類	能力要素	内容	この時間中に特に意識しようとするもの○印	事後評価5点満点
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	<b>物事に進んで取り組む力</b> 例) 指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む。		／5
	働きかけ力	<b>他人に働きかけ巻き込む力</b> 例) 「やろうじゃないか」と呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていく。		／5
	実行力	<b>目的を設定し確実に行動する力</b> 例) 言われたことをやるだけでなく、自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む。		／5
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	<b>現状を分析し目的や課題を明らかにする力</b> 例) 目標に向かって、自ら「ここに問題があり、解決が必要だ」と提案する。		／5
	計画力	<b>課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力</b> 例) 課題の解決に向けた複数のプロセスを明確にし、「その中で最善のものは何か」を検討し、それに合わせた準備をする。		／5
	創造力	<b>新しい価値を生み出す力</b> 例) 既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える。		／5
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	<b>自分の意見をわかりやすく伝える力</b> 例) 自分の意見をわかりやすく整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える。		／5
	傾聴力	<b>相手の意見を丁寧に聴く力</b> 例) 相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す。		／5
	柔軟性	<b>意見の違いや立場の違いを理解する力</b> 例) 自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する。		／5
	状況把握力	<b>自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力</b> 例) チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する。		／5
	規律性	<b>社会のルールや人との約束を守る力</b> 例) 個々の職業倫理に照らし、自らの発言や行動を適切に律する。		／5
	ストレスコントロール力	<b>ストレスの発生源に対応する力</b> 例) ストレスを感じることがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する。		／5
		合計		／60

図版提供 京都産業大学

## ゴール・セッティングシート

\_\_\_\_\_年\_\_月\_\_日

**ゴール・セッティングシート**

学部\_\_\_\_\_ 学年\_\_\_\_\_ 学生証番号\_\_\_\_\_ 氏名\_\_\_\_\_

この時間の目標

[この時間に特に意識しようと思う能力要素に○印(裏面の表、複数可)を付けて下さい。]

この時間に得たこと

[この時間を振り返り、各能力要素について5点満点で裏面の表に点数をつけて下さい。]